

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第5号を下記のとおり発表したので送付します。

平成21年度病虫害発生予報第5号

平成21年8月5日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	やや多
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	やや少
	紋枯病	—	並
	白葉枯病	やや遅	やや少
	穂枯れ	—	並
	ニカメイガ	—	少
	セジロウンカ	—	やや少
	トビイロウンカ	—	並
	イチモンジセセリ	—	並
	コブノメイガ	—	やや多
カメムシ類	—	並	
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	—	やや少
モモ	モモハモグリガ	—	やや少
	ナシヒメシンクイ	—	やや多
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	さび病	やや遅	やや少
	褐斑病	—	並
	べと病	—	少
	ブドウトラカミキリ	—	少
	フタテンヒメヨコバイ	—	少

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	— — —	やや多 並 やや少
トマト	疫病 葉かび病	— —	やや多 並
ダイコン	軟腐病	—	やや少
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	並
野菜共通	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	— — —	やや少 やや少 やや少
キク	ナミハダニ	—	やや少

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は83.3%で
 平年(60.8%)よりやや高かった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされ
 ているが、梅雨明けが遅れている。

ウ. 植物防疫情報第4号参照

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では速やかに薬剤防除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱
 い品種では病勢の進展が速いので、早期発見に努める。

イ. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるが、例年、梅雨明け後の高温少雨条
 件により病勢が停滞する。しかし、梅雨明けの時期がはっきりしなかった
 平成5年には、いもち病の発生に好適な気象条件(低温多雨)が続き、穂
 いもちが多発生したので、今後の気象及び葉いもちの発生動向に留意する。

(2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査によると、県北部及び中部地帯の葉いもちの発
 生圃場率は25.9%で平年(47.7%)より低かった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされ、

本病を助長する条件ではない。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. イネの茎数は全般的に平年並である。

イ. 7月27～28日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平年（40.4%）並の発生であった。

ウ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされ、本病を助長する条件ではない。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査において発生を認めなかった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされ、本病を助長する条件ではない。

(5) 穂枯れ（ごま葉枯病菌による穂枯れ：早生種、中生種）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査によると、葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は20.0%で平年（21.6%）並であった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされ、本病を助長する条件ではない。

(6) ニカメイガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺は認められず、平年(0.6頭)並に少なかった。

イ. 7月27～28日の巡回調査では、被害の発生は認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は23頭で、平年（56.0頭）より少なかった。

イ. 7月27～28日の巡回調査によると、発生圃場率は41.3%で平年（58.0%）よりやや低かったが、すくい取り（20回振り）調査による成幼虫の発生量は11.4頭で平年（10.9頭）並であった。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 予察灯における7月1～5半旬の飛来は、赤磐市では認められず平年（0頭）並、津山市でも認められず平年（1.7頭）より少なかった。

イ. 7月27～28日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）によると、長翅型成虫の発生圃場率は13.3%で平年（0.3%）より高かったが、見取り調査では圃場内での増殖は認められなかった。

ウ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温は平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(9) イチモンジセセリ（第2世代幼虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査によると、発生圃場率は19.3%で平年（8.8%）より高かったが、被害程度は軽微であった。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査における被害発生圃場率は67.5%で、平年（48.8%）よりやや高かった。

イ. 地帯別の発生圃場率は、北部地帯が46.7%、中部地帯が75.0%、南部地帯が91.7%と南部地域で高かったが、被害程度は全般に軽微であった。

ウ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温は平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(防除上の参考事項)

ア. コブノメイガによる止葉の被害は減収につながるとされている。

イ. 防除は、次世代幼虫の発生が予想される8月第4半旬頃に行う。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 津山市の予察灯における7月1～5半旬のアカスジカスミカメの飛来数は122頭で平年（282.7頭）より少なかった。

イ. 7月27～28日の県北部巡回調査におけるイネ科牧草地でのすくい取り調査（20回振り）では、アカスジカスミカメの成虫数は140.1頭で平年（91.8頭）よりやや多かった。

ウ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温及び降水量は平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(防除上の参考事項)

ア. 発生源であるイネ科植物からの飛来を防ぐため、水稻の出穂2週間前から出穂3週間後の間は、水田周辺の除草を行わない。

(ダ イ ズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月のフェロモントラップにおける誘殺数は、赤磐市では292.0頭で平年(352.3頭)並、津山市では142頭で平年(219.8頭)よりやや少なかった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温は平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月17、27～28日の巡回調査では発生を認めず、平年の発生圃場率(3.5%)より低かった。

イ. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は94頭で、平年(96.3頭)並であった。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月17、27～28日の巡回調査によると、発生圃場率は54.1%で平年(42.8%)よりやや高かった。

イ. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は69頭で、平年(89.1頭)並であった。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月17、27～28日の巡回調査によると、発生圃場率は40.5%で平年(30.9%)よりやや高く、被害が中程度以上の圃場率は29.7%で平年(9.7%)より高かった。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月17、27日の巡回調査では発生を認めなかった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月17、27日の一般圃場での巡回調査では発生を認めなかった

イ. 7月21日の県予察圃場での発病葉率は44.0%で、平年(42.8%)並であった。

ウ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月17、27日の巡回調査によると、一般圃場での発生圃場率は26.7%で、平年(54.5%)より低かった。

イ. 7月21日の県予察圃場での発病葉率は18.0%で平年(52.7%)より低かった。

ウ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月17、27～28日の巡回調査では発生が認められなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月17、27～28日の巡回調査では発生が認められなかった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発生量は、平年よりやや多かった。

- イ. 7月21、22日の巡回調査では、一般圃場の発生程度は平年並であった。
- ウ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。本病は気温が低く降水量が多い場合に発病が助長される。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場での発生量は平年よりやや少なく、一般圃場での発生程度は平年よりやや多かった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。本病は、降水量が多い場合に発病が抑制される。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場での発生量は平年よりやや少なく、一般圃場での発生程度は平年より低かった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。本病は、降水量が多い場合に発病が助長される。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場では平年並に、発生を認めなかった。

イ. 7月21、22日の巡回調査によると、一般圃場での発生程度は平年並であった。

ウ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。本病は、気温が低く降水量が多い場合に発病が助長される。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場での発生量は平年よりやや多く、一般圃場での発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。本病は、多湿条件が発病を助長する。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月21、22日の巡回調査によると、一般圃場での発生程度は平年より低かった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、本病を助長する条件ではない。本病は、降水量が多い場合に発病が助長される。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年並であった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(各野菜共通の害虫)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は、赤磐市は60頭で平年(74.9頭)並、津山市では267頭で平年(376.1頭)よりやや少なかった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、一般圃場での発生は平年よりやや少なかった。

ウ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、露地野菜(ナス、キュウリ)での発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける7月1～5半旬ま誘殺数は、赤磐市では292頭で平年(352.3頭)並、津山市では142頭で平年(219.8頭)よりやや少なかった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

4 花き類

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 7月31日の季節予報によると、8月の気温、降水量ともに平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224

携帯電話用アドレスの公開

予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。

アドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm>



QRコード